

温室効果ガス排出量 検証報告書

2025 年 2 月 4 日

日鉄鉱業株式会社 様

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 丸尾 智雅



1. 検証の対象及び目的

日鉄鉱業株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{※1}における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果「2023 年度算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の 2023 年度^{※2}（2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで）の以下の温室効果ガス（GHG）排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ 1 GHG 排出量

算定対象において使用された軽油、A 重油、C 重油、ガソリン、灯油、コークス、LPG、都市ガス、廃油、爆薬、及び、石灰石の焼成に伴って直接的に排出される CO₂ 排出量

2) スコープ 2 GHG 排出量

算定対象において使用された電力、及び、地域熱供給に伴って間接的に排出される CO₂ 排出量

検証の目的は、事業者の GHG 排出量情報が算定方法^{※3}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し GHG 排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載された GHG 排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements) の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載の GHG 排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- 北海道石灰化工株式会社、葛生石灰砕石株式会社の現地訪問による、算定対象範囲、排出源、集計体制、及び、算定プロセスの確認
- GHG 排出量の正確性を確認するためのサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された GHG 排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ 1	196,595
スコープ 2 ※4	73,187

NOTE:

※1：事業者の連結対象組織（海外含み全 23 社）を算定対象組織とする。

※2：海外の 3 社の算定対象期間は、2023 年 1 月 1 日～ 2023 年 12 月 31 日となっている。

※3：スコープ 1, 2 の算定方法：

「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(ver.2.6)」及び、事業者が作成した「算定手順書」

※4：電力の排出係数：

国内拠点は、電気事業者別、メニュー別調整後排出係数を使用（マーケットベース）

海外拠点は、国別の排出係数を使用

以上